

## 第4章 競技スポーツの推進

人間の可能性への挑戦を追及するものであり、アスリートたちは、その可能性や新たな記録を目指して日々の練習を積み重ねています。競技スポーツにおいて繰り広げられるさまざまな競争は、技術や記録の向上だけでなく、アスリート自身の人間性も高め、心と身体の両面にわたる健全な発達においての大きな意義も有しています。

また、自分の限界に挑むアスリートのひたむきな姿やその成果は、多くの人々に夢や感動を与えるだけでなく、スポーツへの関心を高め、明るい話題を提供し、私たちの日々の生活に活力やうらおいをもたらしています。

このように、アスリートの活躍は明るく活力ある社会の形成にも寄与することから、本協会では、一貫指導体制の構築やスポーツ医・科学を最大限活用しながら、アスリートが安心して競技に専念し、自己研鑽に励むことができる環境づくりを目指し、積極的に競技スポーツを推進していきます。



### 1 競技力の向上

アスリートの育成・強化や指導者の資質向上を図ることは、アスリート自身の質や成績の向上に限らず、県民のスポーツへの関心を高め、本県スポーツ振興の更なる発展にも期待できます。

現在、全国47都道府県のうち、7割の県が国内最大の国民スポーツの祭典である国民体育大会をスポーツ振興の指標として位置付けています。本県でも、国民体育大会において『天皇杯900点20位台』という成績を目標とし、これに出場する41競技を対象に各競技団体が実施する競技力向上事業に対して各種サポートを行うことで、競技力の維持・向上を目指していきます。

また、ジュニア期における競技人口の底辺拡大や指導者の高齢化への対応、成年選手の育成・確保など、人口の少ない本県が抱える競技スポーツの課題に対しても積極的に取り組んでいきます。

## (1) 競技力向上対策本部の運営

都道府県の人口順位が 41 位にあたる山梨県ですが、国民体育大会における過去 10 年の平均順位は 28.6 位であり、人口順位以上に好成績を取っています。そこで、国民体育大会における目標順位を常に高く設定し、その目標達成に向け、競技力向上に取り組んできました。

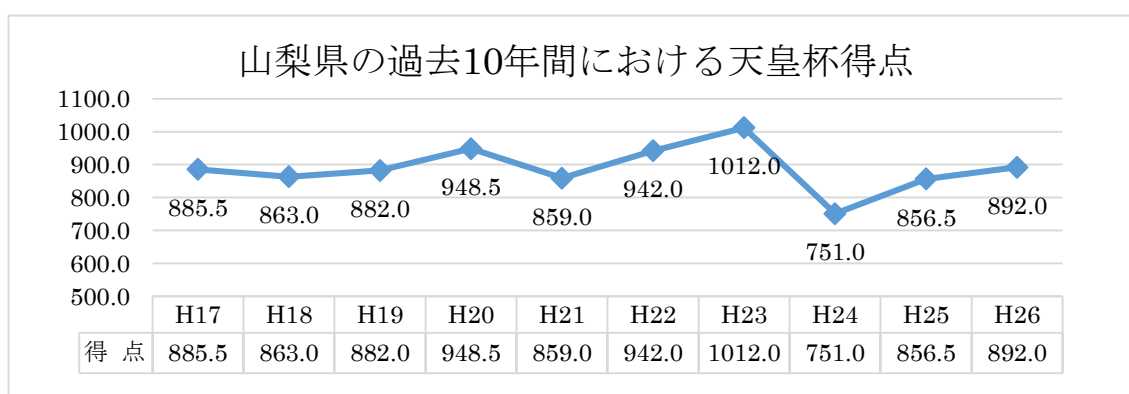
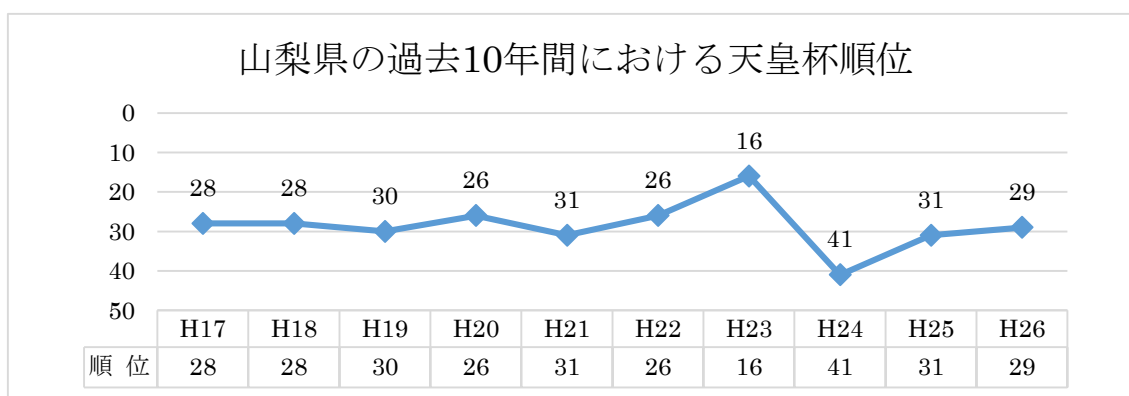


現在の競技力を向上するためには、各競技団体が創意工夫し、強化事業の財源確保や競技人口の拡大に努めていくことが必要です。しかし、組織体制が十分でない競技団体も多く、強化事業の財源確保にも苦慮しているところもあります。

本協会では、本県の競技スポーツの現状を踏まえたうえで、各競技団体への様々なバックアップを実施し、「チームやまなし」として一丸となって競技力の向上を図るため、「競技力向上対策本部」を設置しています。



「競技力向上対策本部」では、競技力の向上のための基本目標に基づいた基本計画を策定し、本県における効果的なサポートの検証や強化費配分の検討、他県の強化状況の調査などを実施していきます。また、競技団体が実施する強化合宿等への訪問・激励を行い、選手のモチベーションを高め、今後も天皇杯 900 点、20 位台の定着を目指していきます。



<具体的な取り組み>

- ① 効果的サポートの検討と検証
- ② 合宿などへの訪問・激励
- ③ 企業スポーツ連絡協議会との連携強化

取り組み	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
効果的サポートの検討と検証	他県の状況調査	→	効果的サポート方法の検討	検証と方法の再検討	→
合宿などへの訪問・激励	継続実施	→	→	→	→
企業スポーツ連絡協議会との連携強化	総会や理事会への参加 国体参加選手の紹介	→	→	→	→

## (2) 一貫指導体制の確立

競技力の向上を目指し、トップレベルのアスリートを育成していくためには、ジュニア期からの一貫した指導が重要となります。そして、ジュニア期から成年までの各ステージにおいて、統一された目的と強化方針による指導プログラムを構築することで、トップレベルの競技力を目指した質の高い指導を受けることが出来ます。さらには、その一貫した指導で育った選手が将来的には指導者として、再び次世代を担うジュニア選手を指導する人材になっていくことが理想のサイクルであると考えます。

本協会では、ジュニア期における人材発掘・育成プログラムを定期的に見直し、長期的展望に立った競技力の向上と、アスリートから指導者へと続く継続的な育成システムを構築していきます。そして、山梨県の全競技団体がそれぞれの強化方針の下で、一貫指導体制を確立していくためのサポートを行っていきます。



現在、このサイクルに沿って指導体制を確立している競技が少しずつ実を結びつつあり、各種全国大会における入賞やオリンピック選手の輩出などの輝かしい栄光を残し、本県の活力に好影響を与えています。



＜具体的な取り組み＞

① ジュニア期における人材発掘・育成プログラムを3年ごとに見直し

取り組み	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
人材発掘・育成プログラムの見直し	現事業 (3年目)	新事業実施 (3年間)	→	→	新事業実施 (3年間)
	事業効果の検証 と見直し・修正	→	事業効果の検証 と見直し・修正	→	→

### (3) 競技団体等への支援

競技人口の少ない本県では、各競技団体は創意工夫を加えた様々な取り組みにより、強化はもとより競技人口の拡大や普及活動を実施し、環境や状況に応じた努力を重ねています。競技におけるあらゆる専門知識や経験を持っている競技団体は、言わば『強化のエキスパート』です。

本協会では、その専門性を活かした取り組みで競技団体が独自の強化を図れるように、さまざまな面での助成を行い、サポート体制の充実を図っていきます。

#### (ア) 競技団体強化

国民体育大会において優秀な成績を収めることを目的とし、出場選手および候補選手を対象に強化事業を実施するための強化費を助成しています。

#### (イ) 指定チーム強化

成年選手の競技力の維持向上を目指し、国民体育大会並びに各種大会において優秀な成績を収めることができるよう、競技力向上に積極的に取り組んでいる企業、大学、クラブチームを指定して助成しています。

#### (ウ) 海外派遣奨励

日本代表として海外派遣される本県出身または本県在住のアマチュア優秀選手に奨励金を支給しています。



#### (エ) 大会助成

競技団体が開催する各種大会において、その運営費の一部を助成し開催をサポートすることで、観戦機会の充実をはかるとともに競技団体の普及活動を後押ししています。



## (オ) 山梨県体育協会特別助成事業

本県スポーツ界において全国的に目覚ましい成績をおさめ、将来的に全国レベルの有望選手として活躍できる選手・チームの育成、強化を図るため、本協会の自主財源から競技団体への助成を行っています。



### <具体的な取り組み>

- ① 競技団体ヒアリングの実施
- ② 助成内容の確認
- ③ 指定チームの競技力調査と3年ごとの見直し
- ④ 企業、大学、クラブチームとの連携
- ⑤ 助成対象者や対象大会の確認

取り組み	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
競技団体ヒアリングの実施	継続実施	→	→	→	→
助成内容の確認	継続実施	→	→	→	→
指定チームの競技力調査と3年ごとの見直し	継続実施	→	→	→	→
企業、大学、クラブチームとの連携	継続実施	→	→	→	→
助成対象者や対象大会の確認	継続実施	→	→	→	→

## (4) 医・科学サポート

高度に進化した現在のスポーツ界において、更なる競技力の向上を図るためには、スポーツ医・科学に基づいた科学的なアプローチが不可欠です。

本協会では、大学教授やスポーツドクターをはじめ、スポーツファーマシスト、管理栄養士、アスレティックトレーナーなど、スポーツ医・科学における様々な専門知識や技術を習得している委員で構成された「スポーツ医・科学委員会」を設置しています。ここでの研究成果を取り入れ、選手の競技力向上や健康管理へのバックアップ体制の充実を図るため、科学的



なトレーニングの指導をはじめ、健康診断結果からの内科的メディカルチェックや栄養指導などの多面的なサポートを実施していきます。

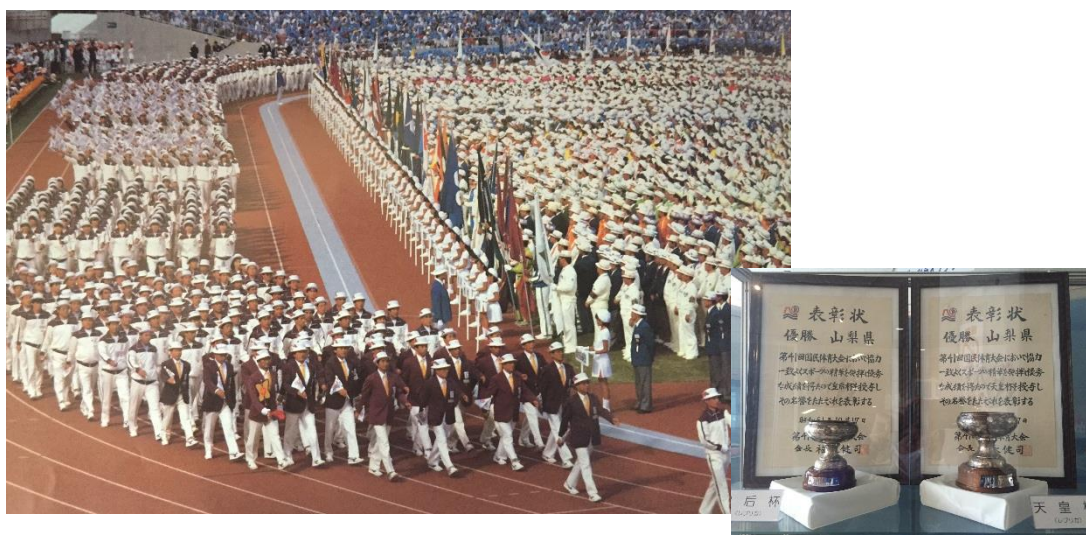
※実施については、希望調査により対象競技を決定していきます。

＜具体的な取り組み＞

- ① 希望調査と対象競技団体の決定
- ② サポート内容の整理
- ③ 効果的なサポート体制の構築

取り組み	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
希望調査と対象競技団体の決定	継続実施	→	→	→	→
サポート内容の整理	継続実施	→	→	→	→
効果的なサポート体制の構築	継続実施	→	→	→	→

## 2 国民体育大会の開催



昭和61年に開催された「かいじ国体」は、本県の競技力向上のみならず、多くの県民のスポーツへの関心を高めました。また、選手や地域が交流の輪を広げ、県民が一つとなって優勝を成し遂げた意義深い大会となりました。国体は、競技者のみならず観戦する人や大会を支える人など様々な方々が一つとなって開催され、地域におけるスポーツ振興、競技力の向上、地域づくり・人づくりなど多方面にわたり大きな効果をもたらします。本協会では、2巡目の本県での国体開催に向けて準備作業を進めて

いくとともに県内の機運を高めていけるよう取り組んでいきます。

本県で開催することが目前に迫っている国民体育大会関東ブロック大会や国民体育大会冬季大会スケート競技会については、日本体育協会からの情報収集や開催予定県への視察を行うとともに、大会の成功に向けて、各関係機関との連携強化を図り、県との分担業務を遂行してまいります。また、準備から開催に至るまでの業務記録を作成し、業務マニュアルとして活用することで、次期開催においても円滑な運営を図ります。

◎国民体育大会関東ブロック大会 … 平成28年度に山梨県で開催

◎国民体育大会冬季大会スケート競技会 … 平成29年度に山梨県で開催予定

#### <具体的な取り組み>

- ① 分担業務の遂行と業務記録の作成（国民体育大会関東ブロック大会）
- ② 成功に向けての業務協力と業務記録の作成（国民体育大会冬季大会）
- ③ 開催に向けての情報収集と開催予定県の視察（国民体育大会本大会）

取り組み	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
分担業務の遂行と業務記録の作成	分担業務の遂行	関東ブロック大会開催	業務記録の作成	→	→
成功に向けての業務協力と業務記録の作成	業務協力	→	冬季国体開催協力	業務記録の作成	→
開催に向けての情報収集と開催予定県の視察	情報収集 開催予定県視察	→	→	→	→

